



横浜市立本町小学校 学校運営協議会【記録】

本町小学校学校運営協議会だより

令和7年度 横浜市立本町小学校 第3回学校運営協議会が開催されました。

➤ 学校ホームページ等での公開版では、個人名の表記をいたしません。

- 1 日 時 令和7年10月21日(火) 15:45～16:45
- 2 場 所 本町小学校 第2図工室ほか
- 3 参加者 学校運営協議会 11名 本町小学校教職員 35名
- 4 内 容
 - (1) 開会挨拶
 - (2) 学校長挨拶
 - (3) 運営協議会委員紹介
 - (4) 部会協議 → 報告

<低学年ブロック>

○学年からの報告（まちたんけんの様子や、生活科の授業の様子などをお伝えしました。）

○報告を受けて委員の方から

- ・本町の子ども達は、怖いもの知らずで人懐っこい。餅つき大会では、子ども達が、自分から積極的に声をかけてお客さんと呼んできてくれる。餅つき大会と知らずに会場のそばを通った人も、子どもに声をかけられて、嬉しそうにしている。最初は、子どもたちから不安の声を聞くが、自分から行動することができる。やりたいことが自分たちでできると感じていると思う。そして、今、笑っている先生の様子を見ることができて嬉しい。
- ・まちたんけんのサポートなど、下の子どもたちを連れながらできるくらいの支援ができたらいい。このまちで育っていなくて今子育てをしている方が多くいる。お店を教えてくれるなど、子どもがきっかけをくれている。また、外国籍の子どもたちが増えている。外国籍に繋がる子どもたちと一緒に生活し、ともに成長していくことに価値がある。間違いなく大きな芽を育てている 自信をもって応援をしたい。
- ・放課後の来る児童で、虫好きな子が男女関係なくいる。生活科と関係していると思う。外国籍で、初めは喋れなかった子の語彙が増えた。指示が通るようになった。それぞれの子どもの成長をキッズでも感じる。その裏に先生たちの努力を感じている。
- ・まじめな子どもだからというのではなく、思いがあるから一生懸命になる。先生が仕掛けをしなければならぬ。子どもは一人一人違うので、一斉にやろうとするのは難しい。一人一人、少しでも成長があれば褒めて認めて価値づけをしていくことが大切。

<中学年ブロック>

○学年からの報告（総合的な学習の時間の様子や、行事の様子などをお伝えしました。）

○報告を受けて委員の方から

- ・外国籍の児童が増えている。手続きも保護者は分からない。子どもは日本語が分かるようになっていても保護者は分からない。サポートによって保護者も分かるようになってくることもある。実際、自分が関わった子が初めは言葉も分からなかったが、立派に成長していった。今でもつながりがある。保護者も次第に連携できるようになってきた。
- ・思った以上に、まちとの関わり合いをもとうとしていて良かった。PTAの方々は学校の様子を分かっているが、一般的には分からないことも多い。まちとの関りについては、町内会長さんと話し合ってみる。いろんな行事があるが、もっと子どもたちを巻き込んでいきたい。各町内の子どもという認識をもち、他の町内というより、それを越えた付き合いをしていきたい。
- ・先生方が楽しそう。目の前の子どもたちを考えて良いものに変えていっていた。やりたいものを相談して取り組んでほしい。問題を見つけるということは理科でもなかなかできてない。やりたいことを先生が引き出している。やりたいことを見つけて来られるのはすごいこと。どこかに行って関わりながら。大事なことをしている。多様性は、教師1人では難しい。多様には多様に対応することが必要。

<高学年ブロック>

○学年からの報告（学年の児童の様子、行事の様子などをお伝えしました。）

○報告を受けて委員の方から

- ・子どもたちが自分たちで協力し合って活動できているのが素晴らしい。
- ・子ども食堂「ハレの日ケの日」では、木曜日の午後、3時過ぎから放課後ハレケを始めた。そこにも本町小の児童が参加している。
- ・先生方の子どもたちに対する手厚いサポートに感謝している。
- ・テーブルを会議形式の授業がとてもいいと感じている。将来社会に出ても生きてくる。実践的なことをやっていて嬉しい。
- ・高学年で心配なこととして、心の成長に伴ってのいじめや学級崩壊がある。受験する子が多く、子どもの帰りが遅くて驚いている。無理のないように、子どもたちが生き生き過ごせる環境になってほしいと願っている。今の子どもたちは失敗の経験を積んでいない、失敗しても立ち上がれる強い子に育てていきたい。
- ・今の子どもたちは、テストや受験をゴールにしているのではないか。そこをゴールにしてしまうと、その後自立できない子がでてくる。中学校では、自分の進路を自分で決めさせている。
横浜吉田中学も外国籍の児童がさらに増えている。中国やフィリピンの方々に加え、モンゴルやネパールの方も増えている。6割以上が外国籍・外国につながる生徒。また年度途中の転入も多い、増えれば増えるほど言語の定着が難しい。

(5) 閉会挨拶（副校長）

※閉会后、「意見書」の内容について検討を行った。